

# 清流

題字：芳野 充

令和元年8月30日  
第32号

発行所 加来不動産(株)  
発行者 加来 寛  
北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに  
静かに  
清流のように

## 警戒に接する旅

「警戒」とは、「せきばらい」のことで、「警戒に接する」とは、間近で咳払いを聞けるだけでも幸せであるという意味から、尊敬する人と直接あったり、話を聴くことを敬って表現する言葉です。

令和元年七月四日、わたしが敬愛してやまない、素心学塾塾長の池田繁美先生にムリを言って、茨城県水戸市で開催された、「いばらき教員応援団」のかばん持ちとして、同行させていただきました。

この「いばらき教員応援団」というのは、「おかめ納豆」でおなじみの、タカノフーズ株式会社の会長である高野英一氏が、この先の日本の行く末を案じ、「世のなかを良くしていくためには、学校の先生方に高い志と理想をもとに奮い立っていただき、子どもたちを正しく育成させていただく他に道はない」という高邁な想いから、行政も巻きこみ「いばらき教員応援団」という組織を発足させました。今年で九年目を迎え、池田先生は高野会長ご指名のもとに、第一回目から登壇し、新任の校長先生や教頭先生をはじめ、新規採用の先生方に、「教育とは、教育者の人格を他の人に移し替える営みであり、その教育者に人間的魅力（徳）が不可欠です」ということを、分かりやすく説かれています。

池田先生が登壇するのは、七月四日でしたが、移動が前後はさまりますので、三日間、池田先生とともに過ごすことになりました。二人だけの時間に耐えられるか、若干不安がありました。結果として一歩踏込み、行動して良かった、と思える貴重な時間となりました。

初めてお会いさせていただいた、高野会長は御年七十九歳ですが、肌身離さずもたれている手帳に、思いついたこと、良書、感じたことなどを、びっしりと書かれていた姿に、「生涯勉強」ということを強く感じましたし、何よりとても魅力的な方でした。また、池田先生とは普段、ゆっくりとお話する機会が少ないのですが、こうして道中ともに行動することで、なかなか聞けない話や、一つ一つの想いなど聴かせていただき、学びがより深まったように感じます。そして、本当に魅力ある人は、まわりにもそのような魅力的な人たちがいるのだと実感しました。

今回、警戒に接する旅をおして、人の成長は「これくらいでいい」とするのではなく、自らもう一歩踏込むことが大切だ、と感じさせていただきました。ありがとうございます。

加来 寛

